

平成31年度(令和元年度)

# 全国学力・学習状況調査

## 能代市分析結果



能代市教育委員会

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

## (3) 調査の内容

### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ・小学校調査：国語及び算数
- ・中学校調査：国語、数学及び英語

### ② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## (4) 調査の方式

悉皆調査



## (5) 調査期日

平成31年4月18日(木)

## (6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	10校	10校（100%）	350人
中学校	6校	6校（100%）	379人

## 2. 教科に関する調査結果

### 1 概要について

小・中学校とも良好な状況です

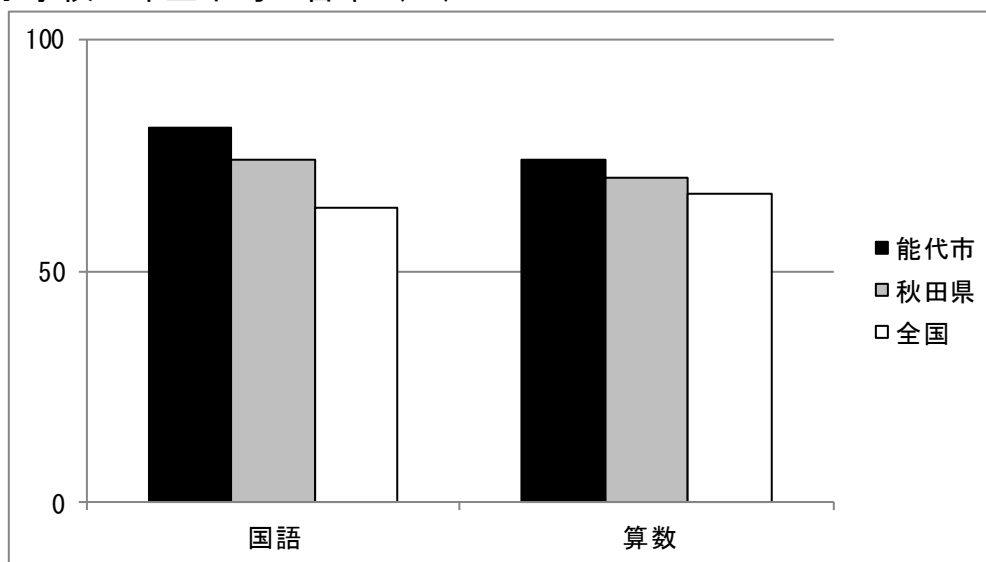
#### (1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、英語の全てで全国平均を上回っています。

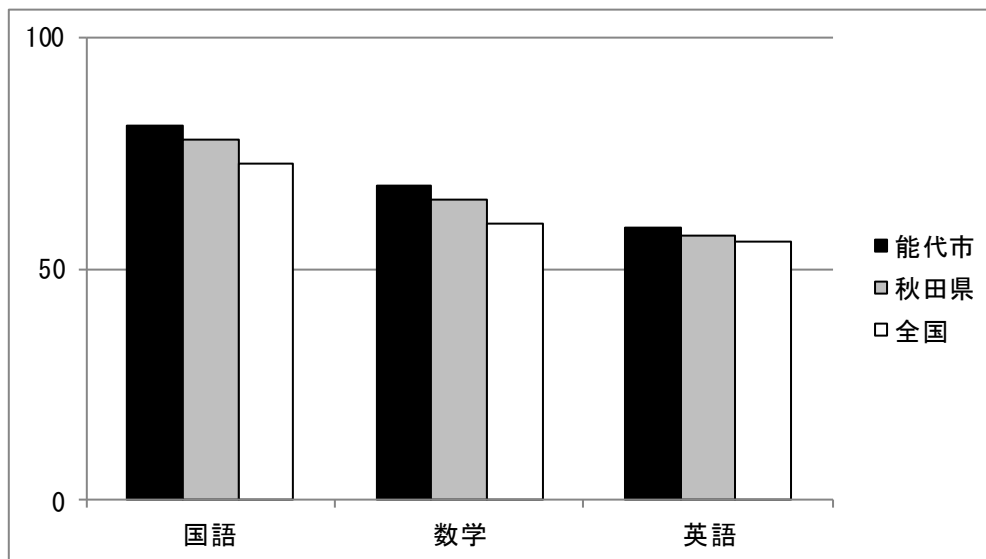
#### (2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、英語の全てで秋田県平均を上回っています。

#### (3) 小学校6年生平均正答率（％）

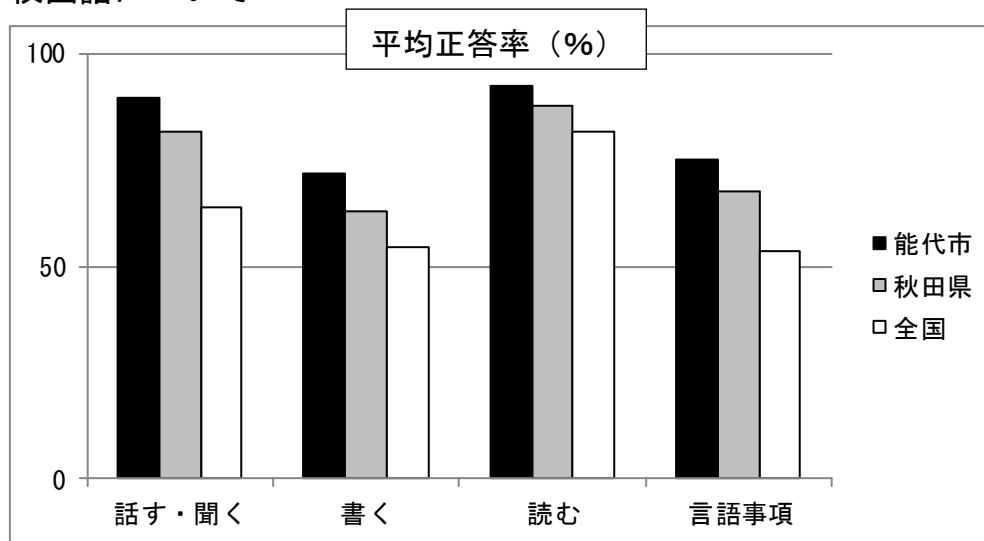


#### (4) 中学校3年生平均正答率（％）



# 3. 教科に関する調査結果(小 国語)

## 1 小学校国語について



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、全てにおいて全国及び秋田県平均を上回っています。



学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問1四(1)ア】

## 更なる向上を目指して

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる問題

【設問1三】



## 指導のポイント

指導に当たっては、①事実と感想、意見などを区別して書くことができるようにするために「事実を客観的に」「文末表現に注意して」書くなど、事実と考えとを区別して書くようにすることが大切です。

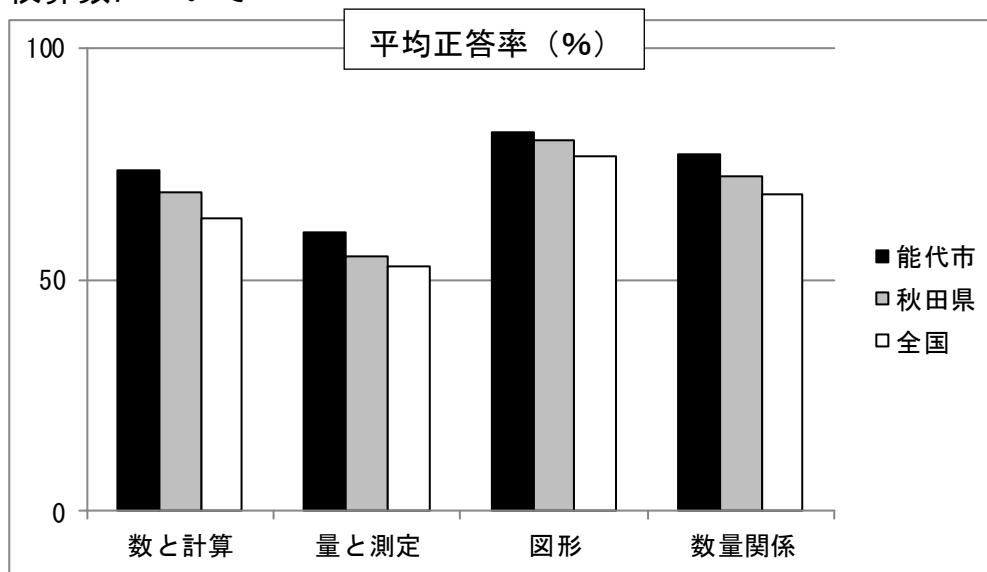
また、②自分の考えを支える理由や事例を明確にすることができるようにするために、「調べた目的」と「調べた結果に基づく自分の考え」とにずれがないよう、自分の考えを確かめながら書くようにすることも大切です。

対策…平成31年度(令和元年度)全国学力調査報告書の学習活動例の活用

- ・本問題の【報告する文章】の構成例(P31)
- ・【報告する文章】を書く学習活動例(P32~P33)

# 3. 教科に関する調査結果(小 算数)

## 1 小学校算数について



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、12問が全国及び秋田県平均を上回っています。



加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回りました。

【設問2(4)】

## 指導のポイント

指導に当たっては、商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法について成り立つ性質を見だし表現する活動が大切です。被除数と除数や商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見いだした性質が他の数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることも大切です。

対策…本問題と関連する問題の活用

- ・平成28年度全国学力調査問題【A1(2)】  
「2.  $1 \div 0.7$  を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書け」
- ・平成29年度全国学力調査問題【A1(3)】  
「 $60 \times 0.4$  を、 $60 \times 4$  を基にして考えるときの正しい積の求め方を選ぶ」

## 更なる向上を目指して

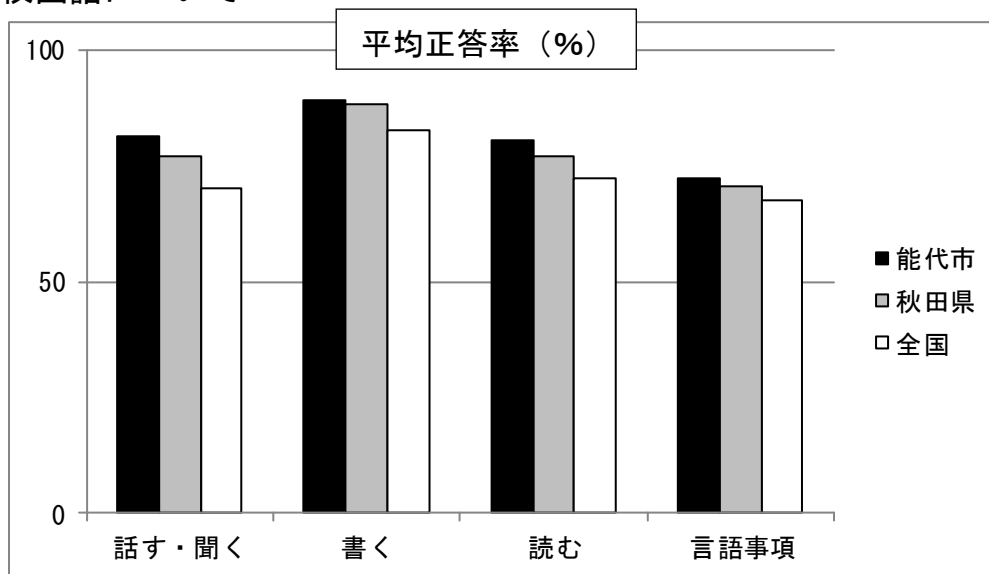
示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

【設問3(2)】



# 3. 教科に関する調査結果(中国語)

## 1 中学校国語について



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全10問中、9問が全国及び秋田県平均を上回っています。



話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回りました。

【設問2-1】

### 指導のポイント

指導に当たっては、語の一部を省いた表現をはじめとする事象や行為などを表す様々な語句の目的や場面に応じた用いた方やその語句を用いる際に必要な配慮等について話し合う学習活動が大切です。具体的には本調査問題①「全国中学生新聞」では「インターネット」と表現していることにふれ、「ネット」と表現する理由について、具体的な場面や状況に基づいて考えるようにすることが大切です。

対策…全国学力調査授業アイデア例の活用

- ・平成29年度全国学力調査【A⑨五】から「自分が使ってみたい語句についてスピーチ」
- ・平成30年度全国学力調査【A⑧三】から「自分だけの『語彙手帳』を基に言葉を使いこなそう」

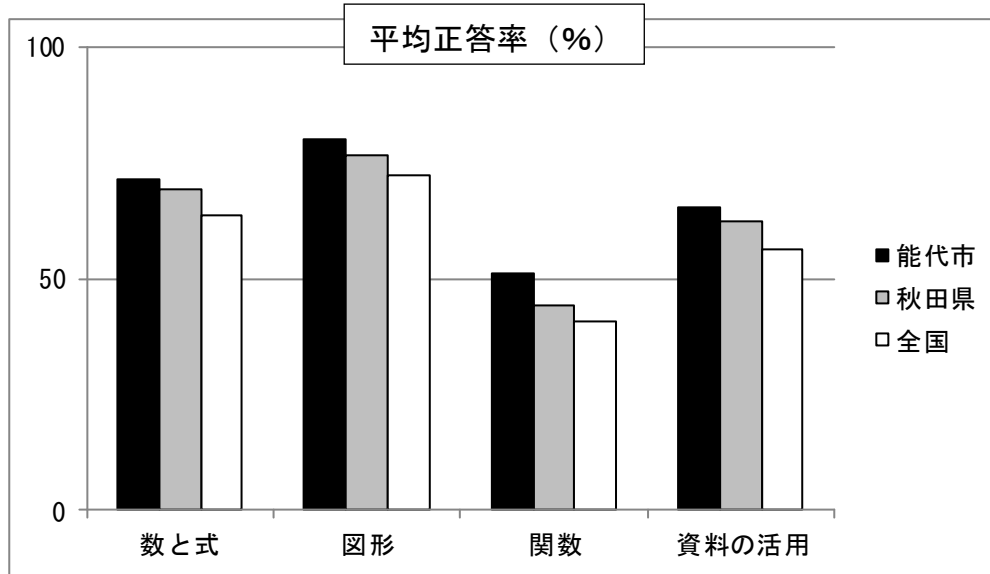
### 更なる向上を目指して

語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解しているかどうかをみる問題 【設問4】



# 3. 教科に関する調査結果(中 数学)

## 1 中学校数学について



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、14問が全国及び秋田県平均を上回っています。



反例の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回りました。

【設問7(2)】

## 更なる向上を目指して

連立二元一次方程式を用いて具体的な問題を解決する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる問題【設問2】

- 連立二元一次方程式を方針に基づいて解くこと
- 簡単な連立二元一次方程式を解くこと



## 指導のポイント

指導に当たっては、一元一次方程式に帰着させる考え方を確認した上で、加減法や代入法の解き方を理解できるようにすることが大切です。解いて得られた値が解であるかどうかを確かめたり、誤って変形した例を提示し、その誤りを修正したりする場面を設定することも大切です。

対策…本問題と関連する問題の活用

- 平成27年度全国学力調査問題【A3(4)】

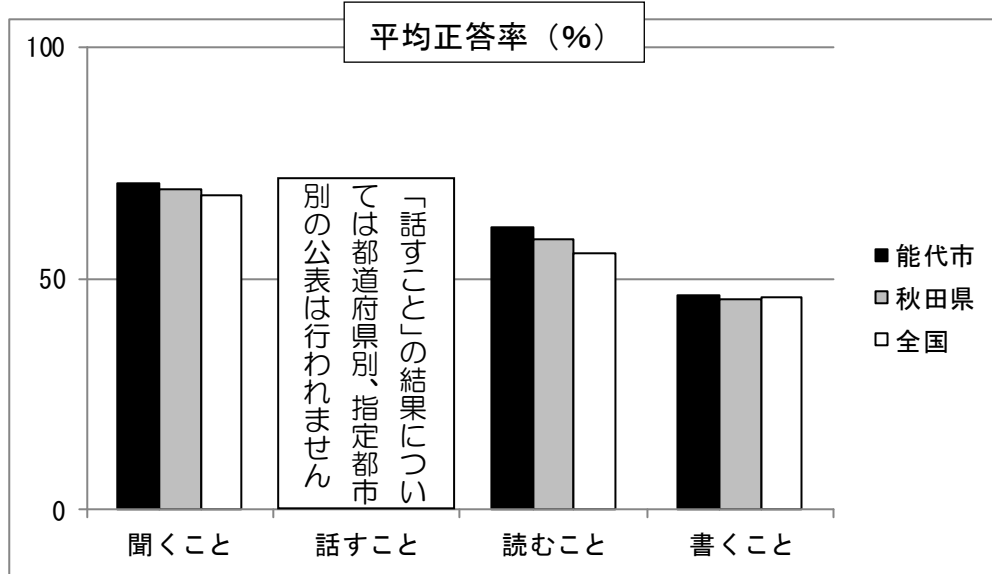
$$\begin{cases} 4x + 2y = 5 \\ x + y = 2 \end{cases}$$

- 平成29年度全国学力調査問題【A3(4)】

$$\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$$

# 3. 教科に関する調査結果(中 英語)

## 1 中学校英語について



### (1) 領域別平均正答率の結果について

「話すこと」を除く全ての領域において良好な状況です

「話すこと」を除く全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全21問中、17問が全国及び秋田県平均を上回っています。



日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回りました。

【設問5(3)】

## 更なる向上を目指して

一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題

【設問9(2)②】

## 指導のポイント

「I stay」や「We stay」など、会話の流れから過去時制を判断できない、また「stay」「stayed」など、主語と動詞の文構造で書くことができているための誤答が多く見られました。指導に当たっては、一文のみを提示し、動詞の形等を変えさせるのではなく、文脈から正しい文の形や時制を考える活動が大切です。

対策…平成24年度「特定の課題に関する調査(英語「書くこと」)調査結果(中学校)の活用P17、P21、P36・37

(例)「適切な文の形式を判断させる指導」P17

授業実践アイデア例  
～適切な文の形式を判断させる指導～

例えば、一般動詞の疑問文や疑問詞 where を用いた疑問文の定着を図る場合、例のように会話のながれの中でどういった内容を表現すればよいかを考えて文を作らせると、1文であっても「考える力」が付きまします。

例)  
Ken: You speak English well.  
\_\_\_\_\_ every day?  
Miho: Yes, it's my favorite subject.

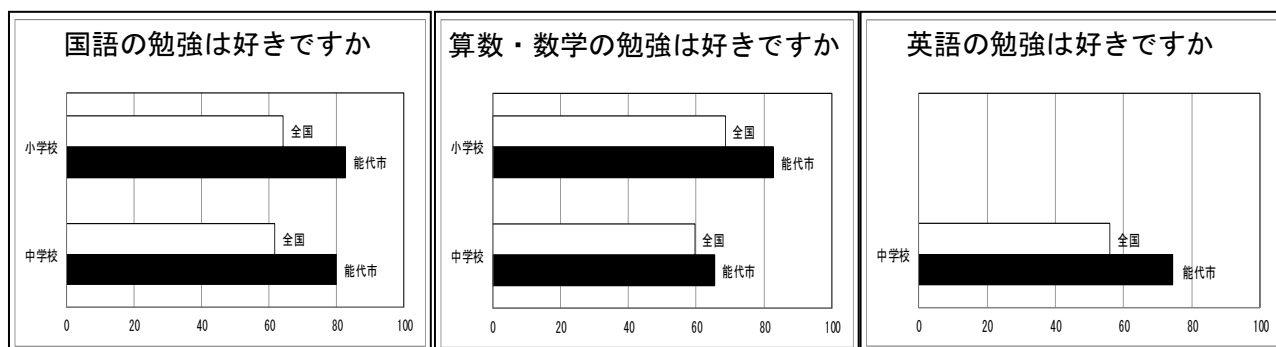
例)  
Ken: I play soccer every Sunday. Will you come and see us?  
Miho: \_\_\_\_\_  
Ken: We play at Sakura Park.



## 4. 質問紙調査結果①(授業づくり)

### (1) 国語、算数・数学、英語に対する関心・意欲・態度

各教科に対する関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて多い

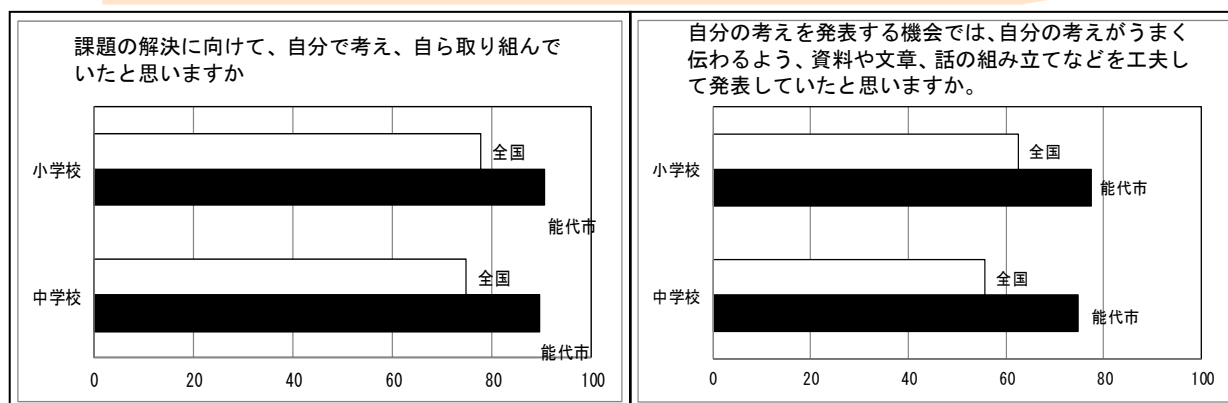


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小学校の国語、算数、中学校の国語、数学、英語ともに、全国平均を上回っています。また、「授業がよく分かりますか」についても、それぞれ全国平均を上回っています。

### (2) 学習状況

- ・ 授業の中で、自分で考える活動が大切にされている
- ・ 自分の考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動が効果的に行われている



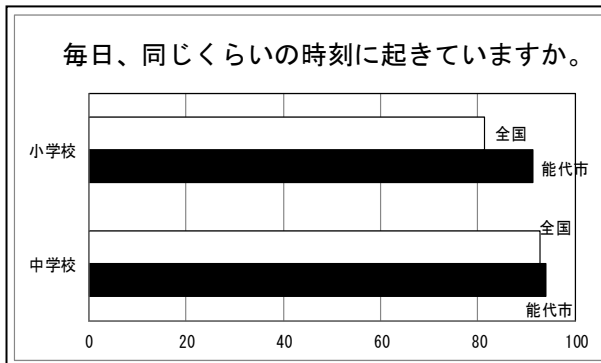
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。各教科において秋田の探究型授業が実践され、児童生徒一人一人に応じた質の高い学びが展開されている姿がうかがえます。

## 4. 質問紙調査結果②(家庭の教育)

### (1) 生活習慣

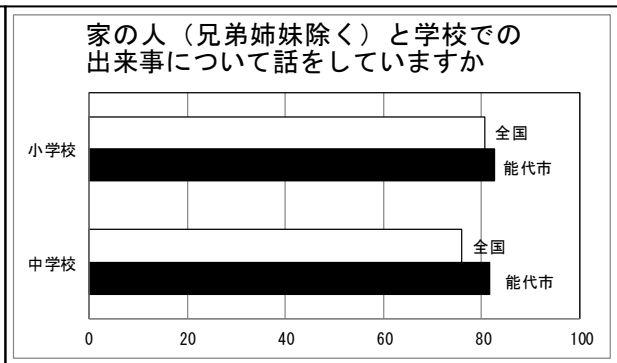
ほとんどの児童生徒が同じくらいの時刻に起きている



「している」「どちらかといえば、している」の割合 (%)

### (2) 家庭でのコミュニケーション

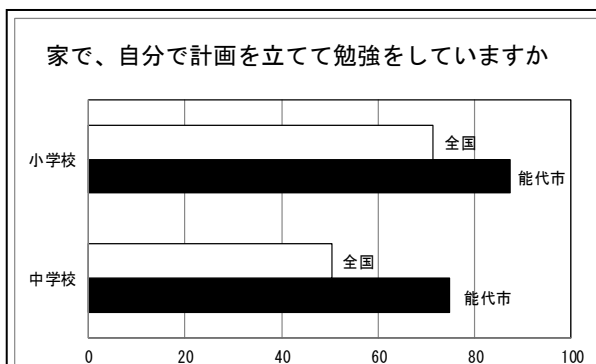
家で学校の出来事を話す児童生徒が多い



小・中学校ともに、家庭での生活リズムが整えられ、各家庭において望ましい生活習慣が定着していることがうかがえます。家庭でのコミュニケーションが様々な問題の早期発見、早期解決につながっていきます。

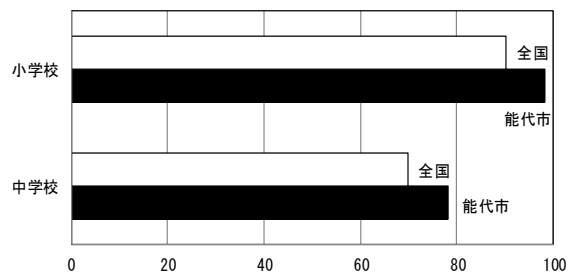
### (3) 学習時間

- ・家で、計画を立てて勉強する児童生徒が多い
- ・学校の授業時間以外にも進んで勉強している



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



小学校は30分以上、中学校は1時間以上と答えた割合 (%)

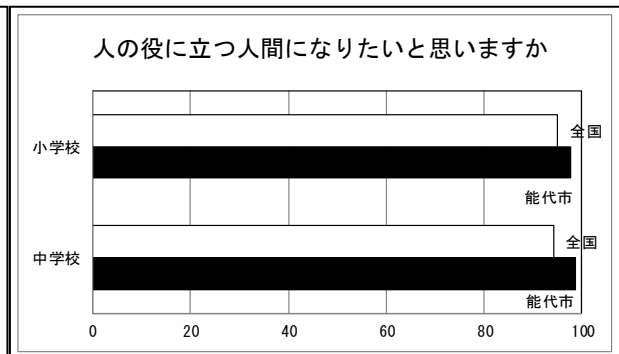
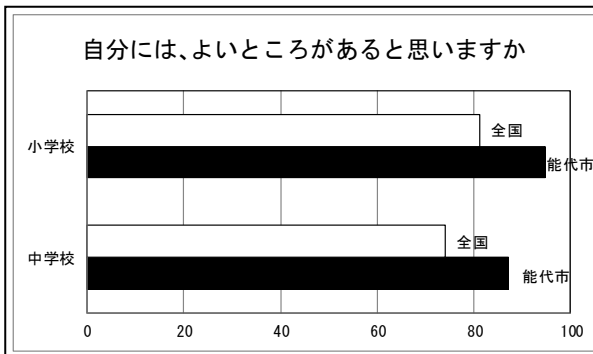
小・中学校ともに、主体的に家庭学習に取り組むなど、各家庭の協力の下、望ましい家庭学習習慣が定着していると考えられます。

## 4. 質問紙調査結果③(ふるさと・キャリア教育)

### (1) 自己肯定感、自己有用感

自分には、よいところがあると思っ  
ている児童生徒が多い

人の役に立つ人間になりたいと思っ  
ている児童生徒が多い



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

授業や諸活動において、児童生徒一人一人が活躍できる場や他者から認められる場を意図的に設定するなど、「居場所づくり」「絆づくり」へ向けた取組を学校全体で共通実践していくことが大切です。

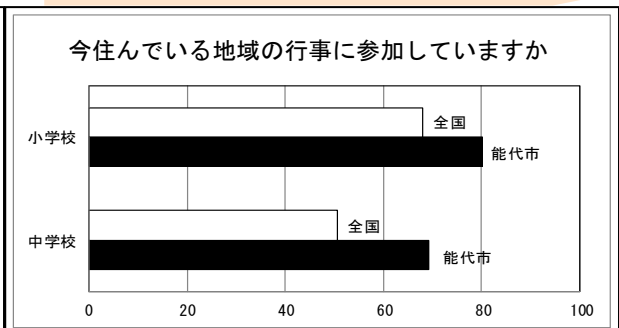
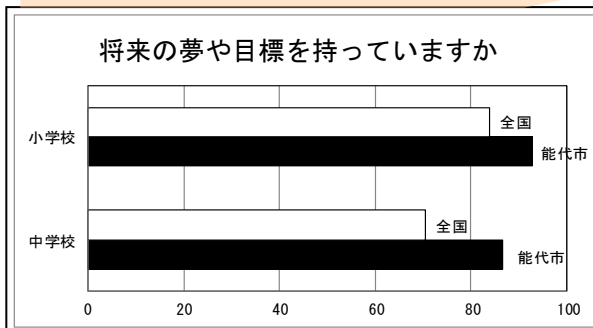
他者を思いやる心が醸成されている様子がうかがえます。引き続き、児童生徒が主体的に取り組む協働的な学び等を通して、好ましい人間関係づくりに努めることが大切です。

### (2) 将来に関する意識

夢や目標をもっている児童生徒が多い

### (3) 地域との関わり

地域の行事等に参加している児童生徒が多い



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

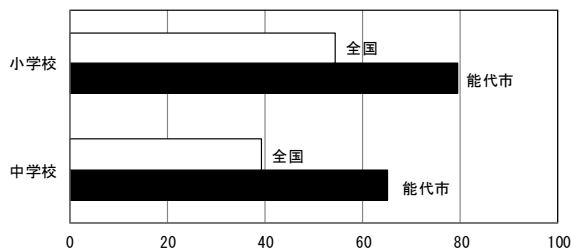
各学校において、ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の充実が図られ、自分の夢や目標へ向け、粘り強く努力し続ける姿勢や様々な知識等を得ようとする意欲につながっています。

小・中学校ともに全国平均を1.0P以上、上回っています。地域や社会に対する関心と地域や社会に関わろうとする意欲の高まりがうかがえます。

## (4) 社会に対する興味・関心

地域や社会への興味・関心が高まっている

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小学校では「ふるさと学習交流会」、中学校では「能代っ子中学生ふるさと会議」を開催しています。こうした取組を始めとした各小・中学校におけるふるさと・キャリア教育の充実が成果を上げています。



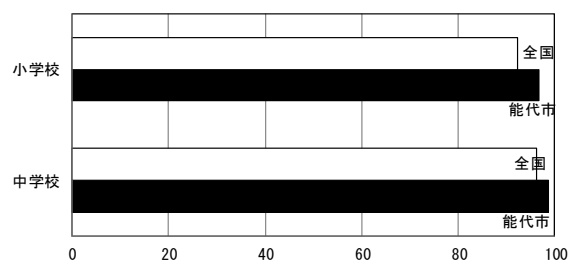
## 4. 質問紙調査結果④(規範意識)

### (1) きまり・規範

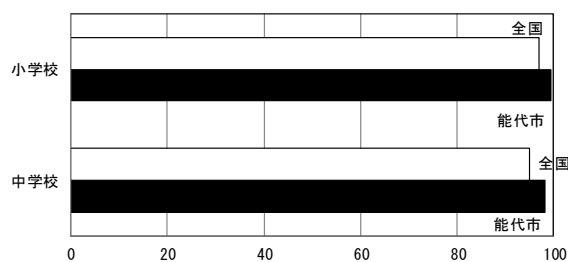
学校のきまりを守って生活している児童生徒が多い

「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒が多い

学校のきまりを守っていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

児童生徒が集団の向上へ向けた努力の過程、目標の達成への貢献を通して、規範意識や他者への思いやりの心と態度を身に付けられるよう、適切な指導・援助に努めることが大切です。

道徳科や特別活動等で、いじめに関わる問題を取り上げたり、児童生徒主体でのいじめ防止の取組を推進したりして、いじめを許さない・いじめが起きない学校の風土づくりに努めることが大切です。